

人見絹枝考

体育教室 油野利博

はじめに

昭和6年8月2日、奇しくも死をかけて走った同じ日に病いとはいえ24年の短い生涯をとじた。

「いかに男優りの体力にも限界があった。引きつづく遠征後の講演、指導に休まる暇もなくふとした感冒がもとで遂に病床の人となった。阪大病院に入院中の彼女を見舞った時これが世界女子競技会を驚嘆させた人見嬢かと思われる程色白く、か弱い姿に変っていたのに驚かされて慰める言葉もなかった」①

オリンピックの陸上競技でメダリストになった日本女性はいまだかつて人見以外にいない。第9回アムステルダム（昭和3年）オリンピック女子800m 2位 2分17秒6（参考記録）

女性の正式種目として始めて参加した100mは準決勝で思わぬ惨敗におわり、まだ経験したことのないエントリーだけしてあった800mにすべてをかけたのでした。

「男子の選手等は各自の定められた種目に負けたとて日本に帰れない事もない。私にはその様な事は許されない。百米に負けました！とって日本の地を踏める身か、踏む様な人間か、何物かをもってこの恥を雪ぎ責任を果さなければならない。中略 いくら走巾とびを失っても、②すべて今自分の持っている日本記録、世界記録を失っても800mで優勝すればオリンピックの事だ、君が代！日章！この2つにこれをかえる事は更に苦痛ではない」③

「女子800m決勝は実に涙ぐましい情景を展開した。決勝に参加した9名④の選手はいずれもゴールに入るとヘトヘトになって将棋倒しに倒れてしまい競技開始以来初めて一般観衆



- ① 織田幹雄、齊藤正躬：スポーツ 179頁
- ② アムステルダムオリンピックには女子走幅跳は競技種目の中含まれず
- ③ 人見絹枝：スパイクの跡 353頁
- ④ 予選3組3着入選でオープンレース

写真1 岡山県営陸上競技場に建てられた人見像 S37年

は泣かされた。ゴールの光景は800mが女子の体力にとって荷が勝ちすぎるようだとの感じを与えた。」⑤オリンピックでの女子800mはこれ以後1960年のローマ大会まで中止されてしまった。

日本女子スポーツの夜明け

人見がもっとも大きな影響を受けた年齢10才代の「大正」という時代は「明治45年」の間につちかわれた国家主義的思想がまだ抜けきらない時代であった。

明治20年中国地方学事巡視の際、森有礼は「国家富強の根本は教育に在り。教育の根本は女子教育に在り。女子教育の挙否は国家の安危に関係するを忘るべからず。」⑥

国民の体格を改造する責任として「第2の国民を作る権利を持つものは即ち女子ではないか。その大責任ある女子は運動や衛生を閑却してならないことは論をまたない。」⑦ 進歩的といわれた女子教育者の成瀬仁蔵も女子体育の必要を外国人と体格の比較から論じ、儒教的な女性観が支配し体育活動には不自然な和服や結髪の障害があった当時の女性に国民教育としての女子体育を強調している。成瀬のもとにいた日本女子大学教授の白井規矩郎は「遊戯の真正の目的といふのは体力の発達心情の発展知覚の増加を計って又精神を堪能にさせるにあるので（中略）競争も一種の遊戯ではあるが、之を学校で正当なる遊戯として与えることは大に考究すべき問題であろう。（中略）競争的のものは重に男子に用いられてあるのだが、之れを女子に与えるとなると一層の慎重を要するのである」⑧と述べ普通体操と兵式体操の並立したこれ迄の学校体育に遊戯研究が盛んになった⑨ものの女子体育にはまだ競争遊戯は適当でないとしている。

一方明治末懸案の教育に関する問題を討議した大正6年の臨時教育会議では、教育を転換させるいろいろな決議が行われた。

「学校に於ケル兵式教練ヲ振作シ以テ德育ヲ裨補シ併セテ体育ニ資スルハ帝国教育ノ現状ニ鑑ミ誠ニ緊急ノ要務ナリト信ズ速ニ適当ノ処置ヲ取ラレムコトヲ望ム」⑩とミリタリズムを建議した内容と共に、大正7年10月には女子教育改善決議事項として「女子教育ニ於テハ教育ニ関スル勅語ノ聖旨ヲ十分ニ体得セシメ殊ニ国体ノ觀念ヲ鞏固ニシ淑徳節操ヲ重ンズルノ精神ヲ涵養シ一層体育ニ励ミ……」⑪

スポーツは明治45年第5回ストックホルムオリンピックに三島・金栗の二人の代表を初めて送った後急速に国際競技への進出、国民的体育大会の創始・各種競技の全国的組織の成立を中心に活発に展開されるのであるが、これは男子の場合であって女子については10数年おくれるのである。

大正12年に文部省が女子体育の最初の指導書として刊行した「女子体育」はトーマス（英）、ガルブレス（米）、ミュラー（独）、マッケンジー（米）などの所説を抄訳し編集したものにはすぎなかった。

大正14年第4回衛生総会に文部省は、女子体育運動に関し学校医の留意すべき事項如何を諮問し、

-
- ⑤ 三木義雄：アムステルダム遠征記 198頁
 - ⑥ 木村匡：森先生伝 198頁
 - ⑦ 成瀬仁蔵：進歩と教育 M44.11 32頁
 - ⑧ 白井規矩郎：新式欧米美的遊戯 M45.2 2頁
 - ⑨ 明治20年～45年の間に220冊の遊戯書が刊行されている。
（明治期出版体育調査表：能勢修一より）
 - ⑩ 竹之下、岸野：近代日本学校体育史 119頁
 - ⑪ 前掲⑩ 120頁

女子に好適な運動種目を考察することなどの答申を得ている。

大正15年には学校体操教授要目が改正され正課体育に大きな影響をあたえた。その内容は「遊戯」であったものが「遊戯及競技」となり、スポーツ種目がとり入れられ、球技系、陸上競技系統の種目が組織立てられたことである。

このような中で、人見の師である二階堂トクヨは大正11年4月に二階堂体操塾を創設し「体操女教師ノ養成ヲ行ヒ兼ネテ国民体育ノ研究ト改善トヲ……」と目的にしたように女子教員の養成コースが中京高女の家事体操専攻科・日本体操学校・東京女子音楽体操学校等が設けられて女子体育が充実されつつあった。



写真2
日本女子体育大学に
建てられた「二階堂
トクヨ」像

人見の生い立ち

人見絹枝年譜

- | | | | |
|------|-------------------------------------|----------|-----------------------|
| M40 | 1. 岡山県御津郡福浜村大字福成25人見猪作の2女として生る | M45. 7 | 第5回ストックホルムオリンピック日本初出場 |
| T 9 | 岡山県立高等女学校入学 | T 6. 5 | 第3回極東選手権大会(芝浦) |
| T 12 | (秋)県下第2回中等学校陸上競技大会出場(走巾とび) | T 8. 4 | 木下東作大毎客員 |
| T 13 | 二階堂女子体操塾入学 | T 9. 8 | 第7回アントワープオリンピック |
| | (夏)陸上競技講習会を受講(岡山師範にて) | T 11. 4 | 二階堂体操塾創設 |
| | スパイクシューズを初めてはく | T 11. 11 | 木下東作大毎運動課長 |
| | 第5回岡山県女子競技大会出場(三段跳10m33) | T 13. 6 | 第1回日本女子オリンピック(大阪) |
| T 14 | 京都市立第一高女に奉職(4カ月間) | T 13. 7 | 第8回バリーオリンピック |
| | 二階堂女子体操塾教師 | T 13. 10 | 第1回明治神宮競技大会 |
| T 15 | 3. 大阪毎日新聞社入社 | T 14. | 第2回日本女子オリンピック |
| | 4. 「最新女子陸上競技法」著 | T 15. 3 | 日本女子体育専門学校認可 |
| | 8. 第2回万国女子オリンピック出場(スウェーデン Göteborg) | | |

S 2	5. 第4回日本女子オリンピック出場 10. アルス運動講座(女子競技)執筆 11. 第4回明治神宮大会出場	4 日本女子スポーツ連盟創立 5 高等女学校令施行規則改正 (遊戯→遊戯及競技)
S 3	5. 第5回日本女子オリンピック出場(400m59"0) 5. 第9回オリンピック予選出場(100m12"2) 7. 第9回アムステルダムオリンピック出場(800m2位)	S 2.8 明治神宮大会隔年開催と決る S 3.2. 第2回サンモリッツ冬期オリンピック 日本初出場
S 4	5. 「スパイクの跡」著 5. 第6回日本女子オリンピック出場(三種競技) 10. 第5回明治神宮体育大会出場 11. 「戦ふまで」著	S 3.8 アムステルダムオリンピック (三段跳 織田 1位15m21)
S 5	2. 家庭科学大系(女子と運動競技編)執筆 5. 第7回日本女子オリンピック大会兼第3回世界大会予選 9. 第3回万国女子オリンピック出場(チェコPrah)	
S 6	2. 「ゴールに入る」著 5. 婦人公論大学(スポーツ編)執筆 8. 大阪市立病院にて没 岡山市浜野妙法寺に眠る 10. 「女子スポーツを語る」著	S 7. 第10回ロスアンゼルスオリンピック陸上競技日本女子9人 出場 真保槍投4位

「買ってはあげるがラケットなんかいうものを家に持って帰ると、皆に叱られるから学校に置いておけという約束がありました。」^⑫

岡山高女でテニスの対校戦を見て感激した人見は母親にラケットの購入をせがみ、2年生で大阪での関西女子庭球大会に出場するまでに上達した。

4年生になり、たまたま陸上競技会にかり出され、それ程の競技者としてのトレーニングをしたわけではないのに、走巾跳で4m67の日本女子記録をマークした。今にしてみれば小学生でも出される記録だけに当時の女子競技の低調さがうかがえ、これがもし人見を陸上競技のとりこにしたキッカケだったら大きな意味がある。

その後の進路についても岡山高女の校長の強いすすめもあり二階堂体操塾に進学するが、「当の私は体操学校なんか頭の悪い人達の集る所だ。私はそんな所には行くものと反対しておりました。」^⑬と人見は記している。

二階堂に入学後、陸上競技について正式にコーチを受けたのは、夏の休暇で岡山に帰った時に、1週間、当時の第一線選手の高野孫三郎、鴻沢吾老らによって開かれた講習会であり、人見が始めてスパイクシューズをつけたのもこの時である。「私は早く善良な体操の先生になろうと思ってこの講習会に馳せ参りました。」^⑭

この後、第5回岡山県陸上競技会に招かれ三段跳で10m33の世界記録(非公認)をマークしてし

⑫ 前掲③ 9頁

⑬ 前掲③ 23頁

⑭ 前掲③ 28頁

まうのである。

1年間で二階堂を卒業し京都第一高女に勤務することになる。「卒業に際し『塾にいて十分天分を伸すのも結構ですが人になるにはどうしても他人の御飯を食べなくては駄目です。一年間丈勤めて来なさい』」⑮と恩師の二階堂にいわれたのであるが、わずか4カ月後に母校に舞いもどり、二階堂体操塾が日本女子体操専門学校昇格の準備を手伝い、昇格後、大阪毎日新聞社に入社し記者と競技者として輝しい日々を送るのである。

人見がどうして二階堂にそのまま残らないで大阪毎日に就職したか疑問が残る。「体操専門学校の仕事が一段落したので自分の将来を考えさせられました。自分の専門に精進するために今迄随分私を後援してくれた大毎に入社」⑯と記している。二階堂トクヨのことを二階堂トクヨ伝には、「自分の所信と自分の直感的判断（良心的といってもよい）に対してひどく忠実で、自分の信じるところと一致しないものを同志と認めずすぐ敵に廻わしてしまう潔癖さがあった。（中略）折角育て上げた人見絹枝選手に離反されたことなどでもそのような潔癖さに基因しているのであった。」⑰と記されており人見がその後スポーツ界に傾倒していったことを考えると、二階堂の体操と相容れないものがあったに違いない。又人見が二階堂に入学した時の様子を「先生は何々選手と名のつく者に少しも好感情を持って居られませんでした。選手の精神が気に入らないというのでした。テニスの選手であった私も先生の目にとまり、善い事、悪い事凡てが先生のお目にさわりました。之では私も到底一カ年の間、いや一学期の間も過せないと思いました。」⑱と記している。

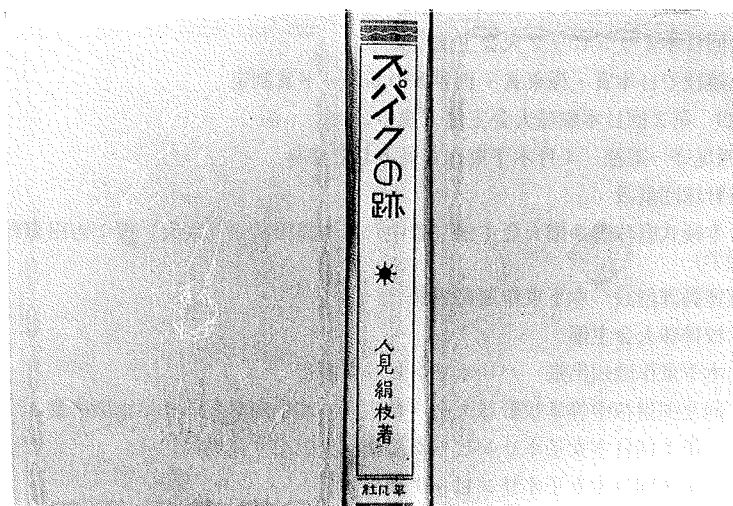


写真3 S4.5発行 B6判406頁

木下東作との出会いと大毎時代の人見

大阪毎日新聞社は、明治34年12月堺大浜で百マイル競走を主催するなど、早くからスポーツの紹介・普及・奨励に努め専門の運動記者を置いていた。

- ⑮ 前掲③ 34頁
- ⑯ 前掲③ 37頁
- ⑰ 二階堂清寿：二階堂トクヨ伝 143頁
- ⑱ 前掲③ 25頁

大阪毎日新聞社運動関係年表

- M34 12. 百マイル競走主催（堺大浜）
- 38 8. 大阪湾10マイル長距離競泳（築港～魚崎間）杉村陽太郎（東大1位）2°48′
- 39 6. 阪神打出・南海浜寺に海水浴場及び海泳練習場創設
- 41 7. 第1回全国中等学校庭球大会（浜寺海水浴場）
- 42 3.21 大阪・神戸間マラソン競走主催 19マイル56チェーン金子長之助(岡山)1位2°10′54″
23 大阪・神戸間のマラソン競走活動写真（松島第二電気館）
- 44 6. 西尾守一入社 44.8～東京朝日新聞22回にわたり「野球とその害毒」記事連載
- 45 4. 大阪十三・箕面間クロスカントリー主催 田舎片善次（愛知一中）1位
- T 2 10. 第1回日本オリンピック大会主催（豊中）
- 4 5. 第2回日本オリンピック大会主催
5. 第2回極東オリンピック大会（上海）西尾守一派遣 運動記者海外派遣第1号
8. 第2回海上10マイル遠泳主催 第1回中等学校競泳大会
- 5 5. 第3回日本オリンピック大会主催（豊中）
12. 京都・大阪・神戸三都市対抗陸上競技大会主催（豊中）神戸優勝
- 6 5. 日・比オリンピック大会主催（豊中）陸上競技
- 7 1.12 第1回日本蹴球大会（豊中）主催
- 7 11. 第4回日本オリンピック大会主催（豊中）
- 7 陸上競技で日本賞・極東賞・世界賞のレコード賞制定
- 8 1.18～29 第2回日本蹴球大会主催（豊中）
- 1.20 西尾守一退社 4月木下東作客員として参与
- 9 5. 大毎野球団創設
- 10 10. 全日本硬式庭球選手権大会主催（豊中）単：原田武一（京大）復：吉田嘉寿男・小林了二（関学）
- 11 11. 大毎運動課創設 木下東作運動課長
- 12 12. 女学校排球大会主催
- 13 2～10 木下東作欧州出張 パリオリンピック派遣
4. 第1回全国選抜中等学校野球大会（名古屋）高松商業2-0早稲田実業
- 6.15,16 第1回日本女子オリンピック後援（大阪市立運動場）
- 14 4. 第2回日本女子オリンピック後援
- 15 3. 人見入社 4月日本女子スポーツ連盟創立 8月人見第2回女子オリンピックへ
- S 2 1. 永井花子（水泳）5月原田武一，6月斉藤巍洋（水泳）入社
8. 斉藤全米水泳選手権出場（ハワイ）原田テ杯出場（アメリカ）
4. 阪神国道開通記念クロスカントリー主催 山田兼松1位
- 8.3～9 東日，大毎第1回都市対抗野球（神宮）大連満俱3-0全大阪
- 3 6～9 アムステルダムオリンピック人見出場 星野運動課長派遣
10. 仏陸上競技選手来日後援
- 4 7. 星野龍猪退社 西尾守一入社

10. 独陸上競技選手来日後援
 5 | 5. 日本女子スポーツ連盟後援 人見第3回女子オリンピック大会へ(チェコ)
 | 5~11 木下東作欧州出張
 6 | 8. 人見死去

大正8年4月木下東作は、大阪医科大学在籍のまま客員として参与し大正11年11月正式に運動課長に就任している。

大正15年に「スパイクの跡」の序文を記している星野龍猪が木下に代り運動課長になり、3月に人見が入社することになる。その後も昭和2年1月水泳の永井花子、5月に庭球の原田武一、6月に水泳の齊藤巍洋らを運動課記者として迎えている。

しかし星野は昭和4年7月に大毎を退職し木下は編集顧問として残る。

「私の心を暗くしたのは私の大毎社に於ける木下博士につぐ第二の恩人星野氏を失ったことであつた。7月下旬突然大毎退社による私の打撃は大きかつた。日本女子スポーツ連盟の理事長としてよき私の指導者であつた氏を大毎社から、私の手から遠ざけられることは夫以外に将来の私に対して光明のある標柱を失つた以上の打撃であつた。」^{①9} けれども人見は大毎においては、かつて東京大学でスプリンター^{②0}として活躍したコーチを失うことなく、世界のライトを浴びることになる。

木下東作は大正15年、日本女子スポーツ連盟の会長として第2回万国女子オリンピックのスエーデンに又、昭和3年第7回アムステルダムオリンピックに人見を送り出し、昭和5年第3回万国女子オリンピックにはチェコのプラハへ人見以下6人の女子選手の派遣と女子スポーツ界をリードしていったのである。

「『人見さん!もうそんな淋しい顔はよしてくれ、先生だって年若い一人の娘を旅立たせるには心配だ。私は貴女に何か銭別してやりたいが何も別にこれといって与えるものはない。ただここに作って上げたユニホームとパンツ、これは先生だと思つてむこうに行つて身につけて競技場で奮闘してくれ、あなたの苦しむ時はきっと先生も案じていると思え。あなたは目を閉じて日本の神様!誰でも好いおがめ………きっと貴女は救われる………なあ!きっとそうするのだよ。元氣で行つて来い』と云つて下さつた慈父にも勝るその御心を思い浮べて」^{②1}と人見が単身スエーデンに渡つた時の事を記し、スエーデンでは大阪の木下からの作戦の電報を受けとり

「へだてども国にいませる師の君の
 みことばうけて今日はいさめり」

「ただ一人異郷にあればことさらに
 身にしみにけり師の御言葉は」 ^{②2}

とうたっている。

著書「戦ふまで」の中で、あきらかに木下を描いたと思われるコーチとその人格についてとして、コーチは技術の教育者である他に精神的教育者であり、且つ又人体の構成・機能に熟知したお医者

①9 前掲③

②0 スポーツ80年史 135頁 東大運動会 M30. 一高生木下東作、官立学校生徒競走 365ヤード1位, M31, 440ヤード1位56秒, M32, 440ヤード1位58秒7, 880ヤード1位2分22秒6, M35, 400m1位

②1 人見絹枝:女子スポーツを語る 162頁

②2 前掲③ 73頁

さんでなくてはならないと記している。

人見はプラハの第3回万国女子オリンピックのあと休む暇もなく、ワルシャワ、ベルリン、ブルッセル、パリと欧州各地を転戦した。「朝から咳が出て苦しんだ。オリンピック大会の前日までに長い間冒った風邪をようやく癒していたものを、三日間の大会の疲れと雨と風にあたって又逆もどりしてしまった。シベリヤの汽車の中でとりつかれて二カ月後の今日まで離れない風邪は云い様の無い苦痛を私に与え過した。」^{②③}

「体の調子はポーランドの競技会によって益々乱れ両脚はほとんど役立ちそうもない程になっていた。それでも私はポーランド以上に精神だけの力によっても此の大会に最後の奮闘をしなければ責任が果せなかった。」^{②④}

「この大会によって私の体はもういよいよ立てなくなった。鯉削にかけられた鯉節のように、もうけずれるだけのところをけずりってしまった。生きているのが不思議な位であった。」^{②⑤}

監督として付添った医師木下東作はどう判断していたのであろうか。日本に帰ってから休む暇もなく含嗽薬と吸入器とを携帯してコーチに、講演に出かけるのである。

大正15年第2回万国女子オリンピック

7月8日 出発 8月4日 ヨテボリー着

8月27日 第1日

100 ヤード 予選18時1位11"8 決勝18時25分3位12" 円盤投決勝18時2位33m 62 250 m
予選18時50分2位35"0 決勝19時40分6位

8月28日 第2日

走巾跳決勝17時55分1位5 m 50

8月29日 第3日

60m 予選13時2位8"3 決勝13時20分5位8"0 立巾跳決勝13時40分1位2 m 49

昭和2年4月 谷三三五^{②⑥}よりコーチを受ける

5月7.8日 女子体育大会

走巾跳1位5 m 54 200 m 1位26"1 (世界新) 立巾跳1位2 m 61 (世界新)

5月20, 21日 第4回日本女子オリンピック

400 m 1位1'01"2 (日本最初の女子400 m)

50 m 2位 1位橋本静子 6"8

6月17日 大阪女子体育大会

100 m 12"4 (エキジビション)

8月16, 17日 全日本選手権大会

50m 1位 6"6 100 m 1位12"6

9月 新潟長岡高女コーチする (2週間)

10月18, 19日 近畿神宮大会予選

②③ 人見絹枝：ゴールに入る 191頁

②④ 前掲②③ 198頁

②⑤ 前掲②③ 207頁

②⑥ 100 m日本記録 大正14年 10"8

50m 1位 6"5 (日本記録) 100m 1位12"4 (世界タイ)

11月2, 3日 第4回明治神宮競技大会

50m 1位 6"4 (世界タイ) 100m 1位12"5

昭和3年2月 和歌山で女学生2週間コーチ

5月5, 6日 第5回日本女子オリンピック大会

400m 1位59"0 (世界新) 100m 第1予選12"6 第2予選12"4 決勝12"8 三種競技 100m 12"4 走高跳 1m 43 (日本新) 槍投28m 89

5月13日 万国オリンピック予選

100m 第1予選12"8 第2予選12"8 決勝12"2 (世界新) 走巾跳 5m 98

6月1日 大阪発 6月15日 ロンドン着

6月23日 英国インタークラブ記録会

走巾跳 5m 599

7月14日 全英女子選手権大会

100ヤード予選失格 (ハンディキャップレース) 200ヤード第1予選26"4 第2予選25"8 決勝26"2 槍投118フィート 走巾跳17フィート7インチ

7月18日 アムステルダム着

28日 アムステルダムオリンピック入場式

30日 100m 予選1位 準決勝4位失格

8月2日 800m 予選2位 決勝2位 2'17"6

8月18, 19日 国際競技大会 (独)

走巾跳 1位 5m 51 800m 1位 2'23"6 槍投 1位 37m

昭和4年

5月19日 女子体育大会

200m 1位24"7 (世界新)

5月 第6回日本女子オリンピック大会

200m 1位26"8 80H 予選13"4 決勝13"6 三種競技 100m 12"4 走高跳 1m 45 槍投32m 13

8月15日 岡山, 京都, 大阪, 東京, 和歌山, 静岡女子選手と合宿 2週間 (美吉野)

10月17日 日独国際招待レース 京城

走巾跳 6m 075 100m 12"0 共に追風 5m 80

10月19日 日支独三国対抗

60m 7"5 100m 12"0

昭和5年5月10, 11日 第3回世界女子オリンピック予選兼第7回日本女子オリンピック大会

5月20日 代表選手40日間の合宿 (美吉野)

7月25日 出発 8月11日 プラハ着

9月6日 第1日 開会式

60m 予選1位7"6 第2予選1位 100m 予選1位12"8 200m 予選1位

9月7日 第2日

60m 決勝3位7"8 100m 第2予選3位 200m 第2予選通過 400R 予選1位

9月8日 第3日

槍投予選36m 決勝3位37m 01 走巾跳予選5m 78 決勝1位5m 90 三種競技 100m 13"2

走高跳1m 40 槍投34m 46 2位192点 200m 決勝棄権 400R 決勝4位

9月11日 日・ポーランド対抗戦(ワルシャワ)

60m 2位7"8 100m 2位12"6 走高跳1位1m 40 走巾跳1位5m 39 円盤投3位32m 19 槍投1位36m 55

9月13日 英・独・日対抗戦(ベルリン)

100m 1位12"4 200m 5位28"2 走巾跳1位5m 56 円盤投3位32m 30 槍投3位33m 90

9月20日 日・ベルギー対抗戦(ブリッセル)

100m 1位13"4 800m 2位 400R 1位53"4 (渡辺・中西・本城・人見) 円盤投1位29m 13 槍投1位37m 25

9月21日 日・仏対抗戦(パリ)

80m 2位 200m 2位 400R 2位 走高跳2位1m 30 走巾跳1位5m 61 円盤投1位31m 19 槍投1位37m 44

記録は「スパイクの跡」「ゴールに入る」「女子スポーツを語る」「日本陸上競技史」より抜粋
人見は単に競技者として活躍したのみならず、大正15年、スパイクを足にしてわずか2年で「最新女子陸上競技法」を発刊している。その序には「近頃体育に関係した特にスポーツに於ける雑誌

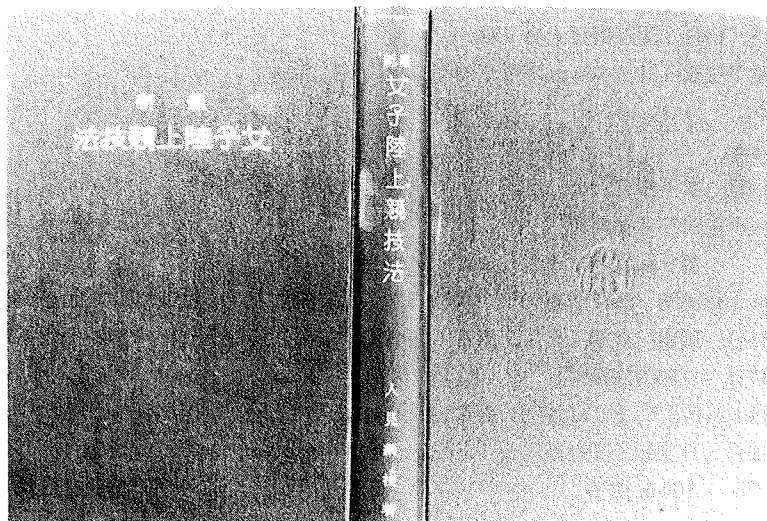


写真4 T15.4発行 B6判234頁

及書籍はとても多く発行されているが、女子のみときめられたものは数える程でしかもそれは男子の方があまり女子を弱く見たためか子供のする様な方法で少しもその真底迄つき入った研究と体験のない為一寸指導者及び競技者に満足を与える事がうすい様に思われてならなかった。(中略) 自分の経験が8分書物による研究が2分」と記すすでに女子競技界の指導的な地位についてなのである。

昭和4年の著書「戦ふまで」の中では、明治神宮大会で行なわれていた三段跳について、女子に害をきたす、世界では男子まで脚の負荷が大きすぎると禁止されていた競技であるから走巾跳に目をむけよと又、大正15年スエーデンで行なわれた女子250mは日本女性ではSprintingで征服するまでには相等の時が必要であり、弾力と強靱な脚筋を養成せよ、リラックスせよ、又ゴール前は再度気をとりなおせ、心だけでなく体の傾け方、腕の振り方、脚のひきつけをと記している。走巾跳の技術でも踏切りについて、助走の最後の2、3歩の動作から踏切りの動作を初める。走巾跳の助走で踏切板の上まで競走のつもりで走られては、助走のスピードがありすぎてかえって悪い結果をもたらす。踏切板2、3歩の所で次第に急がずに滑らかに上体をSprintの姿勢から起して来る。いよいよ最後の第1歩を踏んで踏切板の方に利足をもって行く、その一步はもっとも注意しなければならないと、走巾跳で重要なポイントである跳切り準備動作を記している。又、下体の動作と共に2つの腕は踏切ると同時に上方に振上げられて体の上昇を助けなければならない。腕の利用もその方法如何によって非常に役立って来るし、踏切り反対脚の膝が強く前方に向って振上げられる時、この腕と脚の動作は体の上昇を助けるために踏切ると同時に行なうことと記し、振り込み動作の必要を記し現在でも重要な技術として充分認められているものである。トレーニング法にしても11～12月は走巾跳の全力は行なわないが温い日は短助走で行なうこと、2月までは200～800を走り、3月には100、200、300、3月末にはSprintに移行していくこと等を記して自らのトレーニング計画を示している。

人見の女性観と女子スポーツ観

「何の為に女の子が走ったり跳んだりしなければならないのだろう。こんなことを今更頰を曲げて考える人はいないでしょう。むつかしく考えれば何んでも解り難くなってきます。『第2の国民を作る母体の改善である』この程度に考えていたら間違いありますまい。民族の意気と国の輝きは母性の健康から生れてくる。この位の覚悟と責任を私等女性は持たなければなりませんまい。」²⁷⁾と記している。又、人見は木下東作が著わした「健康増進叢書強壯篇」の中の女子の運動競技の目的とは、第二の国民を作る母性の身体改善にありという文章を「女子スポーツを語る」の中にとり入れている。

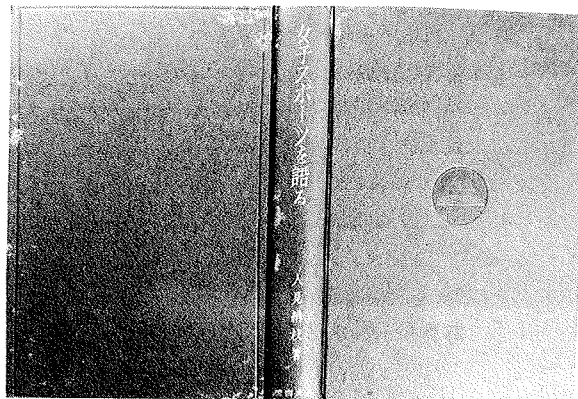


写真5 S 6.10 発行 B 6判224頁

人見は「女子の指導は女子の手で」と最新女子陸上競技法の序で述べているのであるが、特に二階堂トクヨの説く「女子体育は女子の手で」「国家の隆盛は女の健康からです。女を知るのは己れです。今後、女子体育はどうしても女子の手でやらなければならない」^{②⑧} という考えを終生、忠実につらぬいたのである。

スエーデンの大会に単身出場してから次大会にはどんなことがあってもリレーが組める程の選手を派遣しようと女学生をコーチし、自費で40日間の合宿練習を行ない、派遣費の捻出のために全国の女学校に寄附金を募り、その理由として全国女性の代表であるという感を持たせようというのである。

一人でも多くの女子競技者が育つようにと、少女選手の活躍舞台に入らぬようにと考えに考えて出場した大会すら、「人見さん貴女の力と貴女のレコードはもう人が千人も万人も認めているところです。こうした大会に出場することは大いに考えねばなりませんよ。小さい娘さんを相手にしてどうなります。世界選手の名にもかかりますよ」^{②⑨} と恩師の二階堂にいわれ、新聞には人見嬢の出場過多と書かれ「女子スポーツ界に幾分の貢献せんとする小さいながらも一生懸命な念願も殆んど心から失せてしまって『何の為のスポーツだ自分のみの楽しみにしているスポーツではないか。世界の選手が何だ。よってたかって世の中のわからない人等が私を知らぬ間に世界的な選手としたのではないか、勝手な事をいっては困る。人のことをいう間にはもっともっと其人等に与えられた仕事があるではないか。物事の表面のみ見て人を評するの間違いをさとらないのか?』と私の心の中には非常に大きなエゴイズムが湧いて人をうらみ世の中を毛ぎらいする気風がその都度濃厚になって行くのを感じる。スポーツに対するある信念がなかったら私はこうしていなかったにちがいない。」^{③⑩}



写真6 S 6.2発行 B 6判256頁

- ②⑧ 前掲①⑦ 123頁
 。 。 。 。 筆者記入
 ②⑨ 前掲②③ 39頁
 ③⑩ 前掲②③ 40頁

「スポーツは戦だ。私は今も戦いつづけている。それでも幾分その戦は気楽さをさえ感じる様になった。世の中の人々がそれ丈目醒めてきたのだ。昔いろいろの批評をあげた人々も理解してくれる様になったのだ。歎息と感謝は湧いて来るのである。私はまだまだ戦いつづける覚悟をもっている。私はいつ迄これと戦いつづけるか。」③①と記している。

人見の死の意味

脚気というドクターの診断にもかかわらず、母校の名譽の為にと出場した岡山高女時代の陸上競技、まだ世界的にそれ程真剣に行なわれていなかった三段跳に好記録を出したからと、円盤投を現地でマスターしなければならぬ程の19才の女性を、単身スエーデンに送り出した大毎入社時代、人々の熱望を担って競技への勝利を目指し、敗けては帰れない。敗けるのは恥だと考え、石にかじりついてもとピッコをひきひきアムステルダムオリンピック以来、もう一生の間に2度と走るものではないと思わせた800mに自分だけでなく、まだ走った事もない走高跳の浜崎選手③②をも走らせたベルギーでの対抗戦、生きているのは不思議な位と思わせる程、やせるまで跳びつづけさせたものは何であったろう。日本女子の代表だからと派遣費用を全国の女学生から集め、その厚情にむくいるためにと含嗽剤と吸入器を持ち歩きながら、各地へコーチや講演会にと出かけさせたものは何であったのか。

周囲が国のため、国威発揚の場として選手を国際競技会へと送り出す。自らも「故国の声援が選手の胸へよく聞きとれます。私等はベストをつくしてこの御旗の下に倒れんことを更に強く感ずることでありましょう。故国の人々が挙げて下さる熱誠の応援のどよめきはプラグの六人の選手によく聞きとれます。戦ってみます。平和な戦いのオリンピックの会場に大和乙女の誇りをいや高く揚げ祖国の誇りを念じています」③③と電報を打つのである。

スポーツは元来勝敗を楽しむ娯楽としての遊戯性と技術向上のため最大の努力をおしまない技術性とを有している。選ばれた競技者にしてみれば単なる娯楽ではなく何ものにもまさる真剣な努力の対象となってしまうのである。

競技者は心の準備として「勇気・冷静・意気・工夫」が必要であると著書「戦ふまで」の中に書かせたものは、スポーツマンの徳目として、運動家の精神として支持され、敗北は恥辱と感じ、死を感じさせるものは多分に日本伝来の武家の持った精神である忠誠・犠牲・信義・廉恥・礼儀・潔白・質素・儉約・尚武・名譽・情愛を重んずる武道にかけた精神と変ることのない武士道精神そのものではないか。

人見のスポーツ史上への位置づけ

「女子がスポーツに依って体質を鍛えあげる迄にはかなりの歳月を必要とした。貞淑、温順の風は、日本上下の家庭内に於ける根本的な道徳である。が、一面これが女子の運動競技に関してはなかなか頑固で厚い障壁となって居た。しかし国民体育の真剣な要求と、スポーツの世界的発達とはこうした過去の因習をいつかは打破せずには置かない。この為に時代の先輩・リーダー達は誹謗や嘲笑の波に揉まれ揉まれ乍ら、見事にそれを乗り切って一步一步と女子体育、完成の彼岸に到達し

③① 前掲③ 405頁

③② 第3回女子オリンピック（プラハ）の代表

③③ 前掲③ 118頁

ようと計った。(中略)人見嬢の狐軍奮闘振こそは正しく大和島根の強く逞しき女性の心意気を全世界に発揚した殊勲として永くスポーツの青史を飾るものでなくてはならぬ(中略)『名選手は時代を作る』という。日本の女子スポーツが今日国際的にかくの如く急速なる進歩、発達を示した背後には、鬼才故人見嬢の存在が大きな力であり刺激であった事を看過するわけには行かない。」と時の文部大臣鳩山一郎^{③④}が記している。^{③⑤}

昭和6年には、プラハに同行した渡辺が100mで世界10位、走巾跳で9位、80Hの中西が9位にランクされ、人見の持つ走高跳・円盤投・槍投は、4人の新人によって破られるようにまでなった。昭和7年の第10回ロスアンゼルスオリンピックには、男子26人に混ざり渡辺・村岡・中西の他6人の選手を派遣し、槍投で真保選手が4位、400mRで5位に入賞するまでのレベルの向上があった。

「何をやっても直ぐ強くなり運動神経の鋭さを示したが、身体の動きは余り器用というようには思えなかった。強さはむしろ長い努力によって作られたものであった。(中略)人見さんは競技の上で日本女性の先頭に立つだけでなく、多くの後輩を世話して日本女子競技を世界的に引きあげる大きな役割を果している。(中略)もし人見さんというリーダーが今でも健在であったら、もっと女子競技は大きな発展をしているに違いない。」^{③⑥}とあってアムステルダムのオリンピックで人見と参加した織田が記している。

「嬢の犠牲に光輝あらしめよ。世のスポーツウーマン、スポーツマン、指導者及びプレーヤーの父兄は、人見嬢の死に脅えてはならない。唯スポーツに上達するには、渡らねばならない鍛錬の橋に忍び寄って来た疫病其のものに倒れたのである。人々は鍛錬の後には疲労があり、疲労はたとえ過労に陥っても適当に休養を与えれば快復するものであり、快復した後の体力こそ鍛錬しなかった以前のそのものより一層大となるといふトレーニングの常道をよく弁えて、自信を有ってスポーツ界に進軍すべきである。此の常道を辿ることを認識する者の多くなる程、人見嬢は神の世界に於て莞爾として微笑まれることであろう。」^{③⑦}と野口源三郎は人見嬢の死とスポーツと題して記している。

昭和48年10月7日、NHK教育テレビでオリンピックメダリストの南部・織田らの出席で、「狐独のメダリスト」と題し1時間の番組で人見の生涯が報道された。

人見は単なる好記録をマークした競技者でなく、国際的な視野にたち、女子の競技種目やトレーニングについてまで洞察し、陸上競技の本質をみきわめた女子競技者のリーダーであった。今日尚その偶像として児童用読本には、人見の記念碑が思い出の地プラハに建てられていることを記し、国立競技場秩父宮博物館には人見がアムステルダムで競った800mのラトケ選手にあてた手紙やプラハの記念碑の写真が展示されている。

参考文献

人見絹枝：最新女子陸上競技法 T15 文展堂

- ^{③④} S6年～S7年犬養・齊藤内閣の文部大臣
S29年12月～S31年12月、第54、55代内閣総理大臣
^{③⑤} 鳩山一郎：スポーツを語る 142頁
^{③⑥} 織田幹雄：跳躍一路 236頁
^{③⑦} 野口源三郎：体育と競技 第10巻9号 10頁

- 人見絹枝：スパイクの跡 S4 一成社
人見絹枝：戦ふまで S4 三省堂
人見絹枝：ゴールに入る S6 一成社
人見絹枝：女子スポーツを語る S6 人文書房
中央公論社：婦人公論大学スポーツ編 S6
家庭科学大系刊行会：家庭科学大系女子運動競技 S5
アルス：アルス運動講座 8巻, 9巻, 11巻
陸上競技研究会編：アムステルダム遠征記 S3 一成社
鳩山一郎：スポーツを語る S7 三省堂
毎日新聞社：アスリートブック S23
成瀬仁蔵：進歩と教育 M44 実業之日本社
木村匡編：森先生伝 M32 金港堂
織田・斉藤：スポーツ S27 岩波新書
織田幹雄：跳躍一路 S31 日本政経公論社
斉藤正躬：スポーツマン・ノート S23 月曜書房
斉藤正躬：名選手 S41 日経新書
鈴木良徳：記録をうちたてた人々 S40 さ・え・ら書房
文部省：女子体育 T12 右文館
小学館：教育学全集10身体と教育 S43
大谷武一：体育の諸問題 T13 目黒書店
大谷武一：体育とスポーツの諸問題 S10 目黒書店
大日本体育学会編：体育と競技 第10巻9号
大日本体育学会編：アスレックス第9巻9号
二階堂清寿他：二階堂トクヨ伝 S32 不味堂
朝日新聞社：運動年鑑 昭和7, 8年版
大阪毎日新聞社：大阪毎日新聞五十年 S7
竹之下休蔵：体育五十年 S25 時事通信社
日本陸上競技連盟編：日本陸上競技史 S31
竹之下, 岸野：近代日本学校体育史 S34 東洋館
日本体育協会編：スポーツ80年史 S34
日本体育協会編：日本体育協会五十年史 S38
上沼八郎：近代日本女子体育史序説 S43
木下秀明：スポーツの近代日本史 S45 杏林書院
岡山市役所：岡山市史, 学術体育編 S39
岸野雄三他編：近代体育スポーツ年表 S48 大修館
新渡戸稲造著 桜井彦一郎訳：武士道 M41 丁未出版社

資料

陸上競技関係文献目録

まえがき

- (1) 本目録は日本における陸上競技を技術史的にあきらかにするため、特に技術・トレーニング法・ルールに着目しそれらの文化的意味を追求する基礎作業の一環である。
- (2) 抽出採録には下記の図書及び蔵書目録等を主に参考にした。
- ① 塩谷宗雄著「体育研究の文献」師範大学講座 体育 第6巻 昭和10年刊
 - ② 「体育に関する図書」関東師範学校・青年師範学校体育連盟研究部編 昭和23年刊
 - ③ 今村嘉雄著「日本体育史」体育文献目録 昭和26年刊
 - ④ 野口岩三郎著「体育書解題」 昭和28年刊
 - ⑤ 「日本教科書大系第27巻習字その他」木下秀明編 昭和42年1月
 - ⑥ 国立国会図書館蔵 明治期刊行図書目録3 芸術・体育・諸芸の部 昭和48年1月刊
 - ⑦ 明治以降教育文献総合目録昭和24年3月現在 国立教育研究所編 昭和25年10月刊
 - ⑧ 秩父宮記念スポーツ図書館蔵書目録 昭和39年刊及び蔵書図書カード
 - ⑨ 野球体育博物館蔵書目録 1969. 3.31現在及別冊目録 1970. 3.31現在
 - ⑩ 田尾スポーツ文庫蔵書目録 芦屋市立図書館 昭和47年
 - ⑪ 帝国図書館・国立図書館 和漢図書分類目録 昭和16年1月～昭和24年3月
 - ⑫ 国立国会図書館蔵書目録 第4編 芸術・語学・文学 昭和23年～昭和33年
 - ⑬ 国立国会図書館蔵書目録 (和漢書の部) 昭和34年版・昭和35年版・昭和36年版

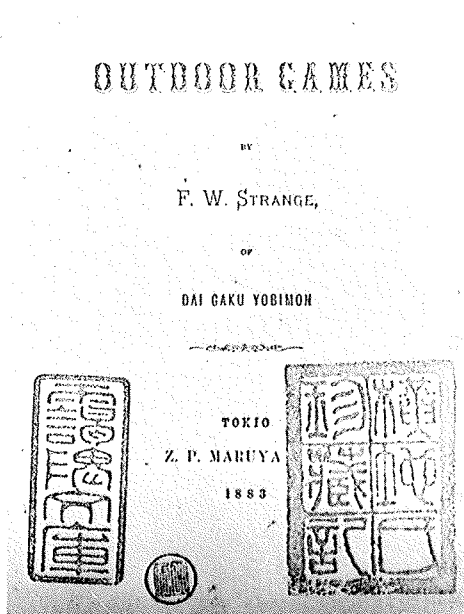


写真7 M16年6月発行 B6判55頁
(野球体育博物館蔵)

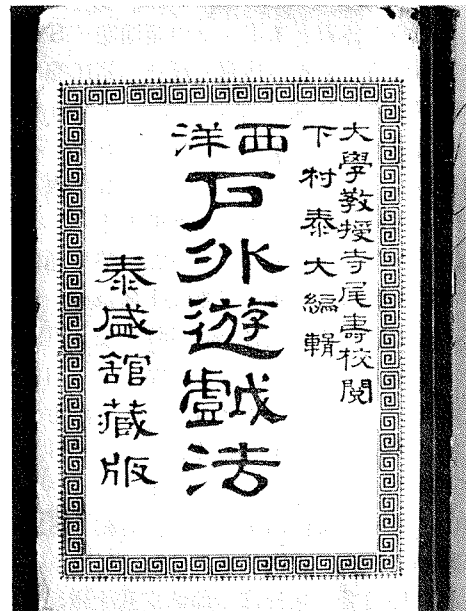


写真8
明治18.12 B6判84頁(野球体育博物館蔵)
(OUTDOOR GAMESを訳したもの)

- ⑭ 東京教育大学附属図書館 本館・分館（体育学部）蔵書カード
⑮ 東京大学総合図書館 蔵書カード
- (3) 「オリンピック」と題する図書については内容が主に陸上競技のものはとりあげた。尚、オリンピック関係文献目録には次のものが刊行されている。
- ① オリンピック関係文献目録 民放資料研究会 昭和39年3月刊
② オリンピックに関する図書目録 東京都江東区立城東図書館 昭和39年7月刊
③ オリンピック大会関係図書解題：伊東明 雑誌新体育 昭和40年4月号
- (4) 雑誌については採録しなかったが下記の文献が刊行されている。
- ① 日本における体育・スポーツ雑誌の歴史：伊東明 上智大学文学部体育研究室紀要2.1969
- (5) 記入事項は年代順とし、書名・著者（訳・編）名・発行所・発行年・備考とした。
- 1 体操及戸外遊戯 漢加斯底爾訳 文部省印行 M12.7 百科全書
2 OUTDOOR GAMES F. W. STRANGE 丸家善七 M16.6
3 西洋戸外遊戯法 下村泰大編輯 泰盛館 M18.3 OUTDOOR GAMES の訳
4 健康必須戸外遊戯法 村瀬松太郎，真切安敦訳 加藤鎮吉発行 M21 OUTDOOR GAMES の訳



写真9 M33.4 発行 A6判148頁
(秩父宮記念図書館蔵)

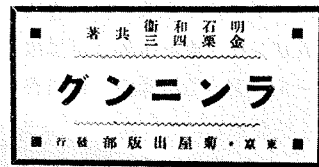


写真10 T5.9発行 B6判283頁

- 5 改正戸外遊戯法 坪井玄道, 田中盛業 金港堂 M21.7 戸外遊戯法 M18.4の改正版 ホップ, ステップ, エンド, ジャンプ・徒競走が加えられる。
- 6 陸上競走 志岐守二 博文館 M33.4 内外遊戯全書第8編
- 7 理論実験競技運動 武田千代三郎 博文館 M37.6 上巻はM36.10 自由英会出版部から発行
- 8 心身鍛練少年競技運動 武田千代三郎 博文館 M37
- 9 オリンピック式陸上運動競技法 大森兵藏述運動世界社編輯部著作 運動世界社 M45.6
- 10 千里善走法 岡伯敬纂(明和8年)
雑芸叢書第2 T4.8 図書刊行会
- 11 ランニング 明石和衛, 金栗四三 菊屋出版部 T5.9
- 12 オリンピック競技法 平本直次 健康堂 T6.7
- 13 競走・跳躍・抛擲・游泳規定 極東体育協会制定 大日本体育協会 T6
- 14 日比野式走り方 日比野寛述 名古屋, 杉浦甲之助 T7.3
- 15 オリンピック競技の実際 野口源三郎 大日本体育協会 T7.12
- 16 理論実際競技と遊戯 可児徳, 石橋蔵五郎 中文館 T8.3
- 17 オリンピック競技法 金栗四三, 石貫鉄心訳マーフィー著 菊屋出版部 T8.8
- 18 韋駄天走り 夏秋誠一, 北崎永栄 菊屋出版部 T9.5
- 19 陸上競技 児童陸上競技研究会編 京都 T10.3
- 20 遊戯競技の実際 可児徳, 佐々木等 宝文館 T10.4
- 21 第七回オリンピック陸上競技の印象 野口源三郎 中文館 T10.5
- 22 最新陸上競技 体育同志会編 帝国青年発行所 T10.5
- 23 陸上競技の研究 寺田瑛 日本評論社出版部 T10.9
- 24 ランニング 佐々木等 目黒書店 T11.2 日本体育叢書第1篇
- 25 ジャムピング 佐々木等 目黒書店 T11.3 日本体育叢書第2篇
- 26 スローイング 二村忠臣 目黒書店 T11.6 日本体育叢書第4篇



写真12 ラ：T11.2 B6判134頁，ジ：T11.3 B6判121頁，ス：T11.6 B6判232頁

- 27 最新陸上競技規則の解説 野口源三郎 ヘルメス社 T11.7
 28 小学校に於ける陸上競技之理論と実際 可知南北 T11.8
 29 女子の運動競技 寺田瑛 日本評論社出版部 T12.4
 30 オリンピック陸上競技法 野口源三郎 目黒書店 T12.4
 31 陸上競技年鑑〔大正12年度〕 全国学生陸上競技連合編 同連合発行 T12.4
 32 女子体育 文部省編纂 右文館 T12.5
 学校衛生叢書第2輯
 33 競技規則と練習法 体育同志会編 体育同志会発行 T12.5
 34 極東オリンピック優勝選手の練習法 大阪毎日新聞社編 大阪毎日, 東京日日新聞社 T12.8
 陸上競技全国巡回コーチ記念

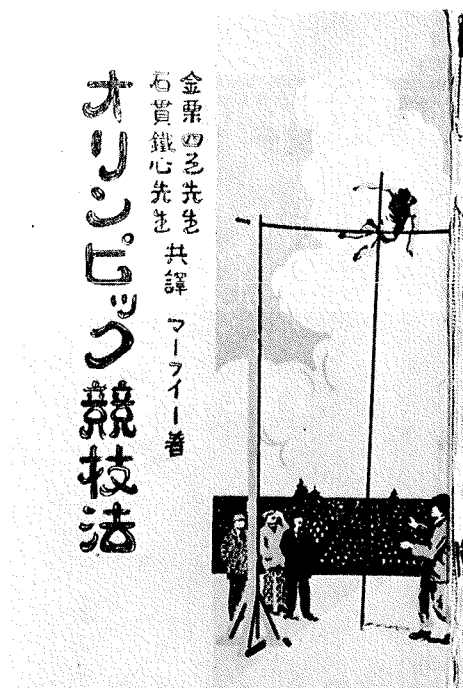


写真11 T 8.8発行 B 6判174頁



写真13 T12.8発行 B 6判118頁

- 35 小学校に於ける競技の実際 多田徳雄 都村有為堂 T12.8
 36 アスレチック・トレーニング 競技練習法 マーフィ著 原栄一編 都村有為堂 T12.10
 37 運動会用 体育練習技の実際 石丸節夫, 得能正親 都村有為堂 T12.10
 38 マラソン競走教範 小泉葵南 T12
 39 小学校に於ける競技と其の指導法 金栗四三 南光社 T13.3 現代教育主要問題叢書2
 40 最新陸上競技法 寺田瑛 日本評論社 T13.4
 41 運動競技の研究 広瀬謙三 東都書房 T13.4
 42 オリンピアへの旅 野口源三郎 改造社 T13.5
 43 日本女子オリンピック年鑑 1924 木下武之助著作 中央運動社 T13.6

- 44 競技練習手解き 山岡慎一監修 忠文堂・運動界社出版部 T13.7 運動叢書
 45 競走指針 文部省著作 右文館 帝国学校衛生会 T13.7
 46 故松田恒政君 吉田興山, 腰本寿編 松田義美 T13.7
 47 小学校の遊戯競技 佐々木等他 目黒書店 T13.9
 48 計画と実際陸上競技会 秋葉祐之 目黒書店 T13.10
 49 オリンピック競技の組織的研究トラック篇 高見沢忠雄 日本青年会館 T13.10
 50 女子競技 三橋義雄 広文堂 T13.11
 51 この頃のランニング 縄田尚門 T13
 52 最新スポーツ全書 日本スポーツ協会編 文化研究会出版部 T14.3
 53 オリンピック陸上競技法 吉井甚右衛門 T14.3
 54 跳躍技 佐藤信一 右文館 T14.3
 55 オリンピアの印象 野口源三郎 目黒書店 T14.4

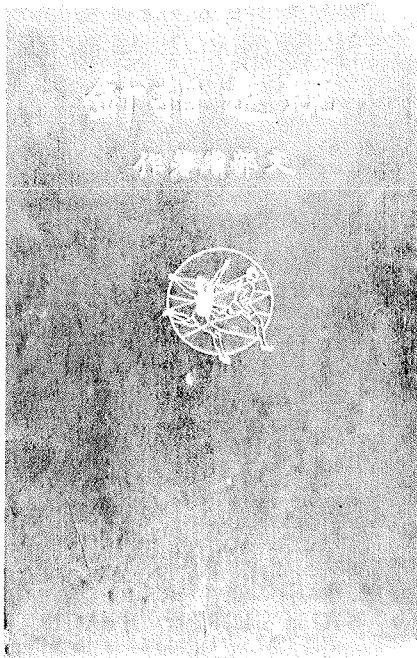
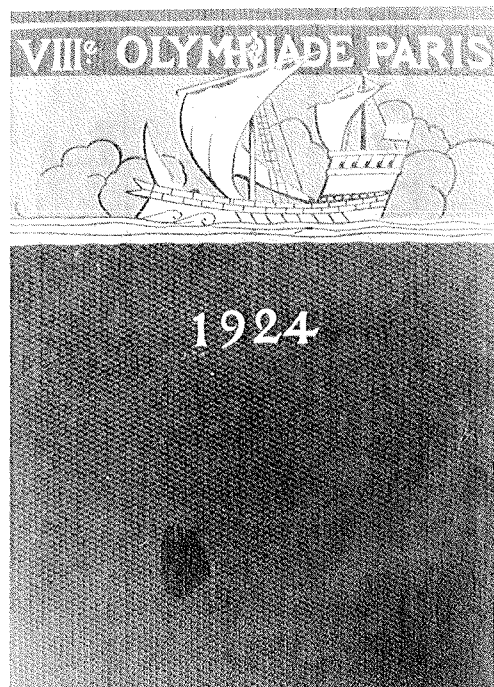


写真14 T13.7 B 6判123頁

写真15 オリンピアの印象 野口源三郎
T14.4発行 A 5判522頁

- 56 青年の競技 トラック・フィールド編 安田弘嗣 更新出版社 T14.5
 57 競歩研究健康増進 歩行と体育 二村忠臣 更新出版社 T14.6
 58 陸上競技 中園進 教文書院 T14.6 新体育研究叢書第一編
 59 運動競士協会憲章類纂 大阪市立高等商業学校校友会編纂及発行 T14.6
 60 運動競技全書 内務省編纂 朝日新聞社 T14.7
 61 投擲技之研究 二村忠臣 更新出版社 T14.7

- 62 名選手之面影 二村忠臣 一成社 T14.12
 63 オリンピック競技の組織的研究 フィールド篇 高見沢忠雄 日本青年館 T14.12
 64 最新国際陸上競技規則 野口源三郎 東京高等師範学校内体育学会 T14.12
 65 陸上競技規則の解説と其の適用 浦野隆之 T14
 66 芬蘭のランニング 竹内広三郎 広文堂 T15.1
 67 女子陸上競技の実際 安田弘嗣 モナス T15.4

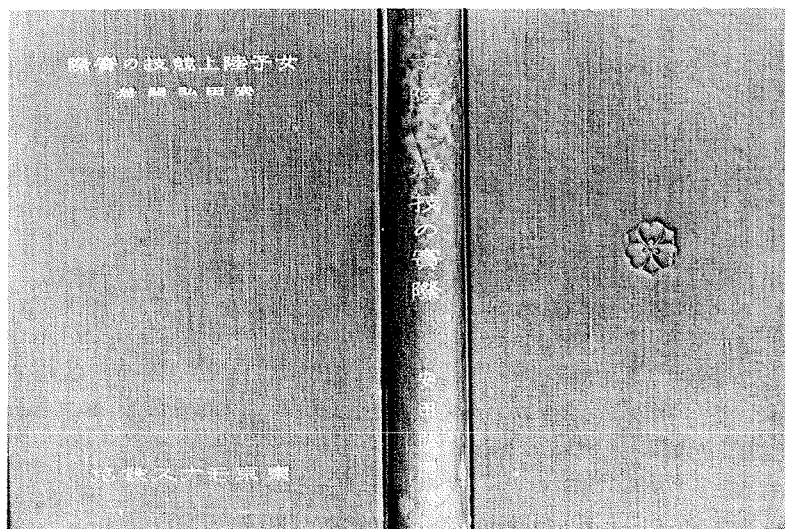


写真18 T15.4発行 B6判305頁

- 68 最新女子陸上競技法 人見絹枝 文展堂 T15.4
 69 TRACK and FIELD T.E.ジョーンズ著 二村忠臣訳 一成社 T15.5
 70 最新国際陸上競技・ボールプレー規則及註解 高橋喜一郎 千葉県師範学校内体育研究会 T15.7
 71 陸上競技の教授 佐々木等 目黒書店 T15.8
 72 新制陸上競技規則解説 野口源三郎 ヘルメス社 T15.10
 73 アルス運動大講座(全十二巻) アルス編集部編 T15.12~S3.8
 74 陸上競技史 岡部平太 満鉄読書会 T15.3
 75 陸上競技史 岡部平太 目黒書店 S2.1
 76 陸上競技の練習附現行国際陸上競技規則 出口林次郎訳 二松堂 S2.5 カール・デム著
 77 最も実際の陸上競技の粹 高根沢光位・渡部正 慶文尚 S2.5
 78 陸上競技と調和体操 ヨセフ・ヴァイツラ著 出口林次郎訳 文書堂 S2.5
 79 陸上競技選手の養成と其練習法 鎌田節夫, 青山正夫 明治図書 S2.8
 80 運動と競技 橋戸信 誠文堂 S2.9 大日本百科全集
 81 陸上競技規則 全日本陸上競技連盟 三省堂 S3.3
 82 改訂陸上競技法 野口源三郎 目黒書店 S3.5 オリンピック陸上競技法の改訂

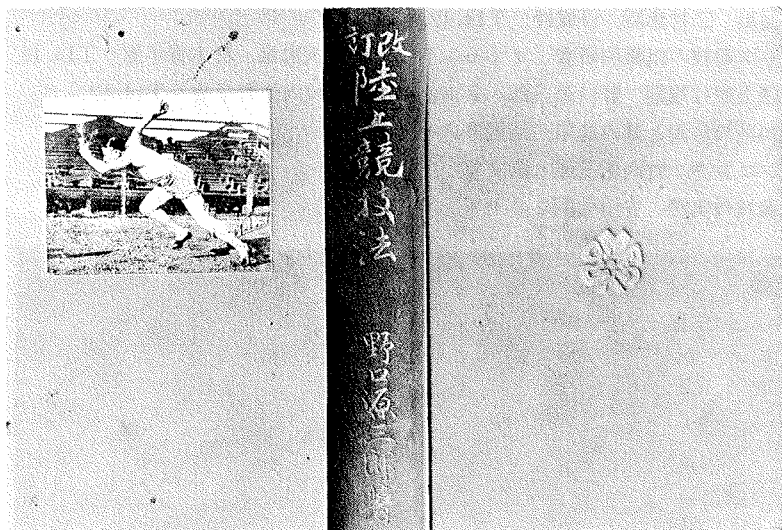


写真19 S3.5発行 B6判505頁 オリンピック陸上競技法(T12.4)の改訂版

- 83 陸上競技 小瀬峰洋 教文書院 S3.5
- 84 スプリング ハロルド・アブラハム著 出口林次郎訳 日本体育学会 S3.5
- 85 五種十種競技 佐藤信一 アルス S3.7
- 86 投擲 二村忠臣 アルス S3.7
- 87 槍投 ウォルター・ルーデ著 出口林次郎訳 一成社 S3.7
- 88 アスレティック ウェブスター著 出口林次郎訳 日本体育学会 S3.7
- 89 アムステルダム遠征記 陸上競技研究会編 三木義雄著 一成社 S3.10
- 90 走幅跳 佐藤信一 一成社 S3.11 陸上競技全集
- 91 三段跳 佐藤信一 一成社 S3.11
- 92 陸上競技 H・M・アブラハム 森真琴訳 大日本体育協会 S3.11
- 93 第9回オリンピック遠征記 相沢巖夫 京都相沢巖夫後援会 S3.
- 94 大典奉祝記念運動会 S3.9.22~26の大連での日仏大会の報告書
- 95 国際陸上競技規則 国際陸連編 全日本陸上競技連盟訳 三省堂 S4.3
- 96 第9回オリンピック陸上競技の研究 野口源三郎 目黒書店 S4.4
- 97 陸上競技概論 安田弘嗣 一成社 S4.4
- 98 スパイクの跡 人見絹枝 平凡社 S4.5
- 99 児童陸上競技の指導と実際 斉藤薫雄・梯一郎 厚生閣 S4.5
- 100 日本陸上競技規則解説 全日本陸上競技連盟編 三省堂 S4.6
- 101 日本学生陸上競技年鑑 昭和四年版 日本学生陸上競技連合 日本学生陸上競技連合発行
シグナル週報社発売 S4.9
- 102 陸上競技コーチと練習の秘訣 橋崎正雄 目黒書店 S4.10
- 103 戦ふまで 人見絹枝 三省堂 S4.11
- 104 健康増進叢書 強壯篇 木下東作・東龍太郎 大阪毎日、東京日日新聞社 S4.11

- 105 健康増進叢書 鍛錬篇 木下東作 大阪毎日・東京日日新聞社 S4.12
 106 家庭科学大系 女子と運動競技 人見絹枝 家庭科学大系刊行会 S5.2
 107 競走と練習百米十五年 谷三三五 三省堂 S5.5
 108 陸上競技カード 野口源三郎 日黒書店 S5.5
 109 フィールド 跳擲 森田俊彦編 三省堂 S5.5 スポーツ叢書
 110 トラック 競走 森田俊彦編 三省堂 S5.5 スポーツ叢書
 111 日独競技を顧みて 全日本陸上競技連盟編 三省堂 S5.6
 112 スローイング 上田精一 日黒書店 S5.11 日本体育叢書第19編
 113 陸上競技トラック入門 加賀一郎 誠文堂 S5.11 誠文堂十銭文庫第88篇
 114 昭和5年度国際女子スポーツ連盟陸上競技規則集 日本女子スポーツ連盟本部 S5
 115 児童本位実践陸上競技 川村善六 明治図書 S5
 116 陸上競技 小高吉三郎編 朝日新聞社 S6.3 朝日スポーツ叢書4
 117 競技運動の心理 野口源三郎 日黒書店 S6.5
 118 婦人公論大学スポーツ編 島中雄作編 中央公論社 S6.5
 119 運動会競技会 齊藤薫雄 同文書院 S6.6
 120 陸上競技指導法 野口源三郎 一成社 S6.2 学校体育文庫第9巻
 121 ゴールに入る 人見絹枝 一成社 S6.2
 122 欧州陸上競技界行脚 日本学生陸上競技連合編 三省堂 S6.7
 123 ポケットフィルムシリーズ 全日本陸上競技連盟編 日黒書店 S6.7

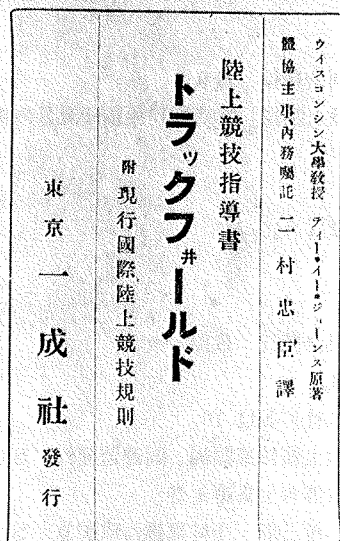


写真16 T15.5発行 B6判293頁

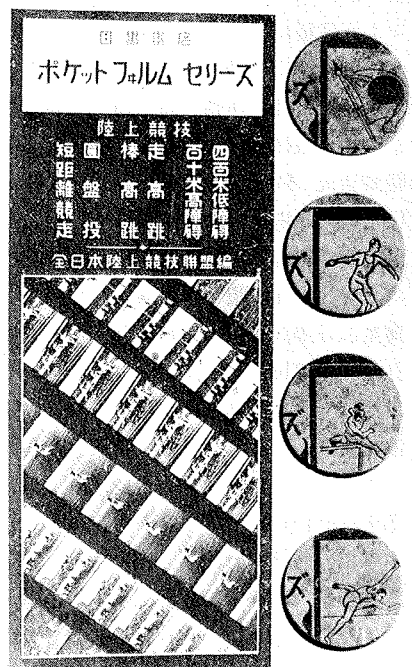


写真17 S6.7発行 6cm×4cmの写真40枚

- 124 陸上競技者に贈る 中沢米太郎 日本体育学会 S6.8
- 125 女子スポーツを語る 人見絹枝 人文書房 S6.10
- 126 保健上より見たる正しき陸上競技第一編 加賀一郎 常盤生命KK企画部 S6.12
- 127 競技心理学 グリフィス著 可児徳・奥藤多蔵訳 日本体育学会 S6.12
- 128 競技指導法 野口源三郎 同文書院 S7.2
- 129 保健上より見たる正しき陸上競技第二編 加賀一郎・津田晴一郎・斉辰雄 常盤生命保険KK企画部 S7.3
- 130 最新運動競技法 加賀一郎編 日本体育研究会 S7.3
- 131 競技場建築 牧野正己 丸善KK S7.7
- 132 児童陸上競技指導法 松尾保之 文泉堂書房 S7.10
- 133 陸上競技練習法 上田精一 目黒書店 S7.9
- 134 陸上競技通になるまで 横井春野 博文館 S7.9
- 135 フィンランドの運動競技 マルティ・ユコラ著 小高吉三郎訳 文理書院 S8.1
- 136 部報1 記念号 北海道帝国大学文武会陸上競技部編 同部発行代表奥田正治 S8.4
- 137 陸上競技規則昭和八年修正 全日本陸上競技連盟 三省堂 S8.5
- 138 陸上競技写真集 陸上競技研究会 一成社 S9.1
- 139 短距離研究 陸上競技研究会編纂 一成社 S9.4
- 140 オリンピック大会報告 日本陸上競技連盟編 三省堂 S9.5
- 141 陸上競技競走編 日本陸上競技連盟編 三省堂 S9.6
- 142 陸上競技跳擲篇 日本陸上競技連盟編 三省堂 S9.6
- 143 マニラ遠征記 日本陸上競技連盟編輯委員会 日本陸上競技連盟 S9.8
- 144 学校競技の指導精神 安田弘嗣 目黒書店 S9.12
- 145 陸上競技の補助運動 高田通 三省堂 S9.12
- 146 京都陸上競技年鑑 昭和8年度 京都陸上競技協会 同会発行 S9
- 147 跳躍研究 陸上競技研究会編 一成社 S10.1 「雑誌陸上競技」臨時増刊跳躍研究号の再刊
- 148 陸上競技学級指導法 佐藤信一 目黒書店 S10.2
- 149 陸上競技指導法 野口源三郎 中文館 S10.6
- 150 陸上競技年報 昭和十年版 日本陸上競技連盟 三省堂 S10.7
- 151 運動競技場設計 出口林次郎 体育運動協会 S10.7
- 152 三浦義雄追悼録 三浦寛玄 S10.10
- 153 京都陸上競技年鑑昭和九年度 京都陸上競技協会 同協会発行 S10
- 154 欧州遠征記 日本学生陸上競技連合 同連合発行 S11.6
- 155 ベルリンオリンピックの全貌 陸上競技研究会編 一成社 S11.10
- 156 第十一回伯林オリンピック大会陸上競技報告書 日本陸上競技連盟編 同連盟発行 S12.6
- 157 中学校の競技 野口源三郎 成美堂 S13.1 現代学校体育全集第4巻
- 158 課外運動の指導 第2部男子中等学校体育第7巻 野口源三郎・今村嘉雄 成美堂 S12
- 159 課外運動の指導 小学校篇第8巻 野口源三郎・今村嘉雄 成美堂 S13.5
- 160 日本学生陸上競技年鑑 昭和11年版 三根元編 日本学生陸上競技連合 S12
- 161 短距離競走 吉岡隆徳 成美堂 S13.2

- 162 学校遊戯及競技〔走・跳・投〕 野口源三郎 目黒書店 S13.6
163 障碍競走 浅川正一 成美堂 S13.6
164 十周年記念年鑑 昭和12年度 日本学生陸上競技連合編 同連合 S13.
165 陸上競技指導要項 佐々木等 目黒書店 S13
166 新集団競技法 野口源三郎 目黒書店 S14.6
167 年鑑 昭和13年版 日本学生陸上競技連合編 同連合発行 S14.
168 正常歩 大谷武一 目黒書店 S16.5
169 フィンランド随想 角谷保次篇 運動文庫 S16.7
170 陸上競技其の本質と方法 織田幹雄 旺文社 S17.9
171 陸上戦技 森田俊彦 愛之事業社 S18.10
172 大江季雄 大江季雄記録編集部 大江季雄記念録刊行会 S19.10
173 女子陸上戦技 森田俊彦 新教出版社 S20.4
174 陸上競技 織田幹雄 旺文社 S21.8 青年スポーツ新書
175 スポーツ随筆 辰野隆 文壽堂 S22.3
176 陸上競技法 管沼俊哉 体育日本社 S22.5
177 学校体育指導要綱解説(5)陸上競技篇 野口源三郎 目黒書店 S22.10
178 私の競技史 山内リエ 京都日日新聞社 S22.12
179 陸上競技入門 南部忠平 明倫閣 S22
180 世界記録をめぐって 織田幹雄 御影文庫 S23.5
181 アスリート・ブック 陸上競技の見方・学び方 毎日新聞社運動部編 毎日新聞社 S23.6
182 陸上競技理論と技術 織田幹雄監修 朝日新聞東京本社 S23.6
183 陸上競技の解説と指導 升元一人 帝都出版社(札幌) S23.9
184 マラソン物語 沢井卯一郎 坂出生協組合 S23.
185 陸上競技年鑑昭和24年版 日本陸上競技連盟編集部編 陸上日本社 S24.4
186 遊戯としてのリレーレース 東京高等師範学校体育研究会 不味堂 S24.7
187 陸上競技読本 日本陸上競技連盟普及部編 万有社 S24.8
188 陸上競技 浅川正一 山海堂 S24.8 最新スポーツ選書
189 陸上競技 織田幹雄 旺文社 S24.9 旺文社スポーツシリーズ⑥
190 新しい走運動の指導 根本芳男 中和書院 S24.9 体育研究協会叢書第8輯
191 葦のうた 山内リエ 高須書房 S24.10
192 新しい陸上競技 織田幹雄 青雲社 S24.11
193 競技に生きる 佐々木吉蔵 原書房 S24.11
194 あめりか最近の体育事情 織田幹雄述 日本スポーツ出版協会 S25.1 体育学講座別冊
195 陸上競技審判員必携 日本陸上競技連盟編集 万有社 S25.1
196 運動競技のルールとコーチ 野口源三郎 学習研究社 S25.2
197 陸上競技篇 浅川正一 日本スポーツ出版協会 S25.3 体育学講座第25篇
198 欧米スポーツ行脚 織田幹雄 朝日新聞社 S25.4
199 陸上競技読本〔改訂版〕 日本陸上競技連盟普及部編 万有社 S25.9
200 世界記録を追って 吉岡隆徳・鈴木菊雄共著 教育図書研究会 S25.10

- 201 陸上競技練習必携 鈴木初雄篇 万有社 S25.12
- 202 創立三十周年記念年鑑 関東学生陸上競技連盟編 同連盟刊 S26.7
- 203 短距離走法 吉岡隆徳 金子書房 S26.8
- 204 新しい陸上競技 カールシュレードマン・ワードヘイレット著 日本陸上競技連盟普及部編
ベースボールマガジン社 S26.10
- 205 アスリーツ・ハンドブック (陸上競技練習必携) 1952年版 万有社編 同社刊 S26
- 206 部報2 北海道大学陸上競技部 同競技部編 代表佐藤幸雄 同競技部刊行 S27.3
- 207 五輪大会花の巴里へ 村岡真砂男 スポーツ小説出版社 S27.5
- 208 オリンピック物語改訂版 織田幹雄 朝日新聞社 S27.6
- 209 スポーツ 織田幹雄・齊藤正躬 岩波書店 S27.6 岩波新書101
- 210 関東学生陸上競技年鑑昭和27年版 同連盟編刊行 S27.9
- 211 陸上競技 改訂版 織田幹雄 旺文社 S27 旺文社スポーツシリーズ
- 212 トラック技術 ドン・カンナム著 織田幹雄 講談社 S28.3 講談社スポーツ叢書
- 213 フィールド技術 ドン・カンナム著 織田幹雄 講談社 S28.5 講談社スポーツ叢書
- 214 陸上競技フィールド篇 吉沢宗吉 杏林書院 S28.6 S32.5増補 体育シリーズ5
- 215 陸上競技の科学 筋力はいかにして発揮するか 紺野義雄 万有社 S28.10
- 216 陸上競技練習法 世界記録を目ざして 大島鎌吉 万有社 S28.10
- 217 陸上競技トラック篇 長谷川常次郎 杏林書院 S29.6 体育シリーズ14
- 218 陸上競技 改訂版 浅川正一 山海堂 S29
- 219 陸上競技「走技」と「巧技」大島鎌吉 万有社 S30.6
- 220 陸上競技五十年 織田幹雄 時事通信社 S30.10 時事通信五十年シリーズ
- 221 陸上競技読本 G. B. カラブコフ 丸川順助訳 理論社 S30.10
- 222 ソ連の陸上競技 L. S. ホメンコフ編 大島鎌吉訳 ベースボールマガジン社 S30.11
- 223 あおぐ感激の日章旗 私の陸上競技生活 南部忠平 山内リエ編 ベースボールマガジン社
S31 スポーツ新書
- 224 改訂陸上競技審判の仕方 日本陸上競技連盟 日本体育社 S31.3
- 225 世界記録は破れる! 織田幹雄 万有出版KK S31.5
- 226 跳躍一路 織田幹雄 日本政経公論社 S31.5
- 227 ザトバック 勝利への人間記録 FR・コジック著 南井慶二訳 朝日新聞社 S31.7
- 228 日本陸上競技史 日本陸上競技連盟編 日本体育社 S31.8
- 229 勝利の誓い ジピナ・ガリーナ 大島鎌吉, 西郷竹彦訳 ベースボールマガジン社 S31
- 230 投てき競技 蘭書房編 京都蘭書房 S31
- 231 高校陸上年鑑 1956年版 全国高等学校体育連盟陸上競技部編 ベースボールマガジン社
S31
- 232 走高とび棒高とび 朝隅善郎監修 蘭書房 S32.1
- 233 スポーツと冒険物語 織田幹雄他編 新潮社 S32.1
- 234 陸上競技の力学 小野勝次 同文書院 S32.2
- 235 保健体育学大系7 コーチングの科学 金原勇他 中山書店 S32.3
- 236 島根陸上競技史, 島根陸上競技協会代表岩永美澄 島根陸上競技協会刊 S32.5

- 237 陸上競技改訂重版 浅川正一 山海堂 S32.6
- 238 若い人々のための陸上競技 G・V・コロブコフ 大島鎌吉訳 ベースボールマガジン社
S32.10 スポーツ新書
- 239 私の信条 織田幹雄 ダビッド社 S32.10
- 240 栃木県陸上競技発達史 栃木陸上競技協会代表小太刀新 同協会刊 S33.1
- 241 走る・跳ぶ・投げる ときたつを 碩学書房 S33.5
- 242 写真と図解による陸上競技 浅川正一, 古藤高良 大修館 S33.7
- 243 箱根駅伝史抄 黒田圭助 桜門陸友会 S33
- 244 女子陸上競技 山本邦夫 日本体育社 S33
- 245 短距離走法の新技术 吉岡隆徳 不味堂 S34.10
- 246 陸上競技教本 デ・ア・セミヨーノフ編 大島鎌吉, 南信四郎訳 ベースボールマガジン社
S34.11
- 247 陸上 学校体育研究同志会編 柴田書店 S34.11
- 248 国立競技場建設記随想 横内憲夫 日刊建設通信社 S34
- 249 小中学生の陸上競技 M. A. チェレフコフ著 岡本正己訳 ベースボールマガジン社 S35.2
- 250 見させ!東京オリンピック 長谷川敬三, 高木公三郎 学芸出版社 S35.5
- 251 陸上競技の指導 浅川正一 雄山閣出版KK S35.5 中学体育指導講座
- 252 コーチ50年 岡部平太 大修館 S35.6
- 253 陸上競技トラック 山本邦夫, 帖佐寛章 不味堂 S35.6
- 254 陸上競技者のトレーニング 金原勇 ベースボールマガジン社 S35.7
- 255 駅伝 美山豊 不味堂 S35.10
- 256 スポーツマンシップ物語 野口源三郎, 佐々木吉蔵 ポプラ社 S35
- 257 サークット・トレーニング R. E. モーガン, G. T. アダムソン著 加藤橋夫, 窪田登訳 ベースボールマガジン社 S36.1
- 258 走れ25万キロ マラソンの父金栗四三伝 豊福一喜, 長谷川孝道記 講談社 S36.5
- 259 第7回徳島駅伝記念号 徳島新聞社編 同社刊 S36
- 260 紙上技術コーチ陸上競技 ケン・ドーティ, 織田幹雄共著 小田海平訳 ベースボールマガジン社 S37.2
- 261 スポーツマンの体力づくり 窪田登 ベースボールマガジン社 S37.2 スポーツ新書98
- 262 陸上競技トラック編 キネシオロジーによる新体育 金原勇, 猪飼道夫 学芸出版社 S37.6
スポーツ選書9
- 263 十種競技 投擲編 市川直晴, 入野進 世界書院 S37.6
- 264 陸上競技の問題点 練習の盲点をつく 佐藤信一 日本辞書KK S37.7
- 265 三段跳びのトレーニング ユー・バルホジャンスキー著 岡本正己, 小泉健司訳 ベースボールマガジン社 S37.9
- 266 陸上競技 科学的練習法 G. T. プレスナーン, W. W. タトル, F. X. クレツマイヤー著 猪飼道夫訳 杏林書院 S37.9
- 267 陸上競技の授業 福本久雄 ベースボールマガジン社 S37
- 268 スポーツ・トレーニング 紺野義雄 万有社版社 S38.1

- 269 陸上競技の力学 訂正版 小野勝次 同文書院 S38.3
- 270 ウェイトトレーニングのすべて 平松俊男 ウェイトトレーニング普及会 S38.3
- 271 陸上競技チャンピオンへの道 P・セルッティ著 加藤橋夫・小田海平訳 ベースボールマガジン社 S38.9
- 272 陸上競技 女子と指導者のために 山本邦夫 日本体育社 S38.10
- 273 陸上競技フィールド 山本邦夫, 関岡康雄 不味堂 S39.5 体育図書館シリーズ29
- 274 陸上競技フィールド編 キネシオロジーによる新体育 金原勇 学芸出版社 S39.9
- 275 写真と図解による陸上競技 新訂版 浅川正一, 古藤高良 大修館 S39.9
- 276 根性の記録 おれでもやれる 田島直人 講談社 S39.10
- 277 南部忠平自伝 南部忠平 ベースボールマガジン社 S39.11
- 278 5分間でできるからだづくり アイソメトリックス E・L・ウォリス, G・A・ローガン著 窪田登, 神田良生訳 ベースボールマガジン社 S39. スポーツ新書146
- 279 ウェイト・トレーニングの理論と応用 F・D・シルズ他著 窪田登訳 不味堂 S40.1
- 280 走幅跳のトレーニング ウラジミール・ポポフ著 岡本正己訳 ベースボールマガジン社 S40.1
- 281 スポーツと人生 河野謙三 ベースボールマガジン社 S40.4
- 282 八咫鳥 関西学生陸上競技連盟編 同連盟刊 S40.5
- 283 思い出さん今日は春日弘 近畿陸上競技神人会編 同会刊 S40.9
- 284 陸上競技の方法 B・ウィッシュマン著 福岡孝行訳 ベースボールマガジン社 S40.10
- 285 中・長距離のトレーニング アーサー・リディアード, ガルス・ギルマー著 竹中正一郎訳 ベースボールマガジン社 S40.11
- 286 競技者のためのウェイト・トレーニング G・フックス著 窪田登, 中村誠訳 ベースボールマガジン社 S41.4
- 287 東京オリンピックに見る陸上競技の技術 日本陸上競技連盟編 ベースボールマガジン社 S41.5
- 288 よーいドン! スターター30年 佐々木吉蔵 報知新聞社 S41.7
- 289 五十年史 凌霜陸上競技部OB会, 神戸大学体育会陸上競技部編 同競技部刊 S41.8
- 290 陸上競技の心理 松田岩男 ベースボールマガジン社 S41.8
- 291 陸上競技百年 織田幹雄 時事通信社 S41.9
- 292 走高跳のトレーニング ウラジミール・ジャチコフ著 金原勇, 鶴岡勇夫訳 ベースボールマガジン社 S41.9
- 293 愛知一中競走部史 江口・梅村・岡部等編 S41.12
- 294 マラソン 築地美孝 ベースボールマガジン社 S41.12 陸上競技入門シリーズ
- 295 みんなの陸上競技 日本陸上競技連盟編 ベースボールマガジン社 S42.6
- 296 スポーツ・勝負・人間 岡部平太遺稿集 同遺稿集刊行会 S43.3
- 297 種目別現代トレーニング法 現代スポーツトレーニング1 猪飼等編 大修館 S43.4
- 298 北海道陸上競技協会35周年記念誌 同協会編 代表天近豊蔵 同協会刊行会 S43.12
- 299 沖田芳夫伝 グランドに生きる 沖田芳夫伝発刊委員会 ベースボールマガジン社 S43.12
- 300 昭和43年日本学生陸上50傑 日本学生陸上競技連合編 同連合刊 S43

- 301 日本学生陸上競技連合40年史・昭和43年度年鑑 同連合編集委員会 S44.3
- 302 半世紀のあゆみ 1917—1969 慶応義塾大学体育会競走部編 同部刊 S44.6
- 303 陸上競技 金子藤吉他 大学館書房 S44.6
- 304 コーチのための陸上競技 N・G・オゾーリン著 岡本正己訳 講談社 S44.8
- 305 陸上運動の効率的指導 野沢要助, 三浦勇編 東洋館出版社 S44.9
- 306 マラソン 長距離・駅伝からマラソンまで 高橋進, 西田勝雄著 講談社 S44.11
- 307 図解コーチ陸上競技 片岡巍 成美堂 S45.5
- 308 アメリカ陸上競技の技術 P・ジョーダン, B・スペンサー著 小田海平訳 講談社 S45.6
- 309 陸上競技規則'70 日本陸上競技連盟編 あい出版 S45.7
- 310 陸上競技百年改定増補 織田幹雄 時事通信社 S45.8
- 311 陸上競技入門 一流選手をめざすアスリートのために 大谷吉五郎他 講談社 S45.10
- 312 陸上競技場 体育施設全書5 日本体育施設協会伊藤貫三編 第一法規出版 S46.2
- 313 陸上競技の指導 山本邦夫, 山井正己 道和書院 S46.6 体育実技叢書6
- 314 コーチ学陸上競技編 遠藤辰雄 逍遙書院 S46.7 新体育学講座第57巻
- 315 墨絵のスポーツ 斎辰雄画集 小野等編 講談社 S46.11
- 316 陸上競技教室 丸山吉五郎, 古藤高良, 佐々木秀幸 大修館 S46.11
- 317 図説陸上競技事典下巻フィールド編資料編 大島等 講談社 S46.11
- 318 図説陸上競技事典上巻総論編トラック編 大島, 金原, 福岡, 釜本他 講談社 S46.11
- 319 日本陸上競技記録集1971年前期 三柳将雄監修 日本陸上競技委員会記録班 S46.7
- 320 私の競技歴 浅村忠晴 同氏刊行会 S46.12
- 321 創立35周年 京都陸上競技のあゆみ 同協会編刊行 S47.2
- 322 ランニング・フォーム 小野勝次 講談社 S47.2
- 323 高校陸上トレーニング方式 全国高等学校体育連盟陸上競技部・同連盟指導者協議会編 講談社 S47.4
- 324 アルペン倶楽部50年 鈴木良徳編集 アルペン倶楽部刊 S47.4 松本高校陸上競技部史
- 325 スポーツの技術史 岸野・多和編 三沢光男筆 大修館 S47.6
- 326 金メダル 織田幹雄 早稲田大学出版部 S47.7
- 327 疾走スピード 織田幹雄, 窪田登訳 G・B・ディンティマン著 講談社 S47.9
- 328 陸上競技の力学 G・ダイソン著 金原勇, 渋谷侃二, 古藤高良訳 大修館 S47.10
- 329 ぼくはなぜ走るのだろう。 君原健二の根性の記録 浜上潮児 講談社 S47.11
- 330 陸上競技の指導 学校体育研究同志会 ベースボールマガジン社 S47.11 学校体育叢書
- 331 陸上競技の技術 小野勝次 講談社 S48.4
- 332 陸上競技の技術分析 トニー・ネット写真 小野勝次解説 講談社 S48.6
- 333 40歳からのランニング入門 織田幹雄監修 地球書館 S48.8
- 334 審判ハンドブック'73~'76 陸上競技会の運営と審判 日本陸上競技連盟編 あい出版 S48.12
- 335 マスカルの花道 アベベの栄光と失意 長岡民男 講談社 S49.4
- 336 陸上競技ダイナミクス 競技者とコーチのための T・エッカー著 佐々木秀幸, 織田幹雄 監修 ベースボールマガジン社 S49.4

- 337 中長距離走 高橋進, 帖佐寛章 講談社 S49.7
338 近代陸上競技史 山本邦夫 道和書院 S49.10
追加
339 写真図説陸上競技 遠藤辰雄 逍遙書店 S34.1
340 野口源三郎遺稿集 同遺稿集刊行会代表浅川正一 不昧堂 S44.3
341 陸上競技史 明治編 山本邦夫 道和書院 S45.1
342 スポーツ切手—陸上競技—島三郎 保育社 S38.9 カラーブックス39
343 短距離 日本陸上競技連盟編 陸上日本社 S24.4
344 走る本 石河利寛 徳間書店 S49.11